

文章題テスト・小説(1)

日 月 名 前

★ 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

十歳さいになるまで、キキはまあまあふつうの女の子としてそだってきました。母さんが魔女まじよで、自分も十歳になったら魔女になるかどうか決めなくてはならないとわかっていたのですが、あまりそのことを本気で考えたことはなかったのです。十歳になってしばらくたったころ、友だちが、「あたし、母さんのあとをついで美容師びようしになるんだ」といったのを耳にして、「あとつぎ」ということを急に考えるようになったのです。コキリさんがあとをついでほしいと思っていることはうすうす感じていました。でもキキは、母さんが魔女だからあたしも、とかんたんに考えるのはどうも気がすすまなかったのです。(あたしは自分のすきなものになるんだ。自分で決めるんだ)

キキはそう思っていました。

そんなある日、コキリさんが、

「ちよっとだけ、飛んでみない？」

と小さなほうきをつくってくれたのです。

「あたしが？飛べる？」

「魔女のむすめですもの、だいじょうぶなはずよ」

キキは、そのさそうようないかたがすこし気になりましたが、めずらしさもてつだって、さっそくかんたんな飛びあがりと着地のしかたをおしえてもらうと、コキリさんのあとについて、おずおずとほうきにまたがって、地をけったのでした。

とたんに体がすっと軽くなり、キキは、なんと、空中に浮ういていたのです！

3 「あたし、飛んでる！」

キキは思わずさけんでいました。それは屋根よりたった三メートルばかり



の高さでしたが、とてもいい気持ちでした。空気もほんのすこし青い感じでした。それに、もっと高いところを飛んでみよう、もっと、もっと……そして何が見えるかな、何があるかな、もっと、もっと……とまるで体と心をもちあげるようなふしぎな興味きょうみがわいてきて、たちまち飛ぶとぶことがだいすきになってしまいました。

そしてもちろん、魔女になる決心をしたのです。

(角野 栄子「魔女の宅急便」たっきゅうびんより)

1 線「あとつき」とありますが、キキにとって「あとをつぐ」とはどのようなことを意味しているのですか。次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

母さん

と同じように、自分もしょうらいは魔女になる、ということ。
2〜4行目「母さんが魔女で……考えたことはなかったのです」、5〜6行目「あとつき」ということを急に考えるようになったのです」から考える。

2 線「うすうす」という言葉の使い方として正しいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。「うすうす」とは、はっきりとはしないが何となく、という意味。

ア ガラスごしに外のようすが、うすうす見えている。

イ それがまちがいだということには、うすうす気づいていた。

ウ 部屋の中に彼かれがわすれていった本が、うすうすのこっていた。

エ このまま使い続けると、この紙はうすうす足りなくなるだろう。

3 線「あたし飛んでる！」を声に出して読むとき、どのような調子にするとよいですか。もっともふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア こわがっているように、小さな声で読む。

イ びっくりしたように、大きな声で読む。

——線3のすぐ後ろに、「キキは思わずさげんできました」とある。

ウ 感心したように、静かな声で読む。

エ だれかにたずねるように、終わりを上げて読む。



4 線4「空気もほんのすこし青い感じでした」とありますが、どうい
 ことですか。もっともふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に

○をつけなさい。

「とてもいい気持ち」から、アは当てはまらない。実さいにイの空気が
 冷たかったり、エの青く見えたりしたわけではない。

ア はじめて空中に浮いたことがこわくて、目の前が暗くなったように感じた
 ということ。

イ 高い場所は地上よりも気温が低いので、空気も少し冷たかったということ。

ウ はじめて空中に浮いたことがうれしくて、空気までさわやかに感じられた
 ということ。

エ 高い場所では空や屋根の青い色がうつって、空気も青く見えたということ。

5 この文章でのキキの行動や気持ちの変化を次のようにまとめました。

に当てはまるキキの言葉を、文中から書きぬきなさい。

魔女になるのは気がすすまない。

「ちょっとだけ、飛んでみない？」や
 「魔法の……だじょうぶなはずよ」は、
 コキリさんのことば。

← (自分のすきなものになるんだ。自分で決めるんだ。)

コキリさんにさそわれて、ほうきで飛んでみることにする。

← 「あたしが？飛べる？」

空中に浮く！

← 「あたし、飛んでる！」

魔女になる決心をする。

6 この文章を大きく二つのまとまりに分けるとすると、二つめのまとまりはどこから
 始まりますか。はじめの六字を書きぬきなさい。

そ っ ち ゃ ん な あ る 日

11行目から、場面が変わっている。



文章題テスト・小説(2)

日 月 名前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(小学五年生の宇佐子は、同級生のミキちゃん——ちよっと変わった子でクラスになじもうとしない——のことが気にかかっている。ある日の学校帰り、宇佐子はミキちゃんのとをそとつけていった。)

団地の建物は、いくつかのブロックに分けられていて、ブロックごとに垣根の木の種類がちがう。垣根の中は、ちよっと他人の家のニワか何かのような感じがして、入りにくい。宇佐子はからたちの垣根の外側からそと静かな団地の中をのぞいた。三輪車がほり出してあった。

だれのすがたもないだろうと思つてのぞいたからたちの垣根の内側で、ミキちゃんがこちらを向いてすました顔をしていた。いったい、いつ、宇佐子がいるのに気づいたのだろう。宇佐子はミキちゃんと目があつたしゅんかん、まるで小さな動物みたいにびくつとした。ミキちゃんが手招きをするから、宇佐子はそとからたちの垣根の中に入っていった。階段をはさんで左右に建物が並んでいる団地の入り口でミキちゃんは宇佐子が来るのをマっていた。

「ここが家なの。遊んでいって」

ミキちゃんは宇佐子にそう言った。ミキちゃんの家は四階だった。

「ここが家なの」

ミキちゃんはだまっている宇佐子にまた同じことを言った。宇佐子はランドセルのベルトを手でおさえながら考えこんでしまった。ランドセルをせおつたまま遊びに行つてはいけないと学校でも家でも言われていた。そのきまりをやぶつたことはこれまで一度もなかった。友だちの家に遊びに行くのは、



いったん家に帰ってからというのは、宇佐子のからだにしみこんだきまりになっていた。それなのにミキちゃんは宇佐子がせおっているランドセルなど目に入らないかのように、当たり前前に「遊んでいって」と言う。

宇佐子がだまっていると、ミキちゃんはべつ⁴のことをシンパイ^オしていると思ったらしい。

「だれもないから。上がっていった」

そう言った。言い終わると、もう宇佐子はついてくるものと決めたみたい階段を登り始めた。宇佐子はランドセルのベルトに手をかけたまま、まよっていたが、意を決して階段を上り始めた。

(中沢けい「うさぎとトランペット」による)

(注) 垣根…しき地などのくぎりをつけるための草木を使ったかこい

からたち…ミカン科の落葉低木 意を決して…決心して

1 線ア→オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア「建」の音は「ケン」。建材、建国など。健康などの「健」と使い方をくべっしよう。

ア たてもの

イ 庭

ウ しず(かな)

イ「庭」の音は「テイ」。庭園、家庭など。ウ「静」の音は「セイ」。平静、静止など。

エ 待(って)

オ 心配

エ「待」の音は「タイ」。期待、待望など。オ「配」の訓は「くばる」。

2 線「まるで小さな動物みたいにびくっとした」とありますが、このようすから、

宇佐子のどのような気持ちを読みとれますか。最もふさわしいものを、ア→エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア おそろしくなった

イ **びく**りした

気づかれないようにあとをつけていたつもりだったのに、だれもないだろうと思ってのぞいた垣根の内側で、「ミキちゃんがこちらを向いて」いたのである。

ウ しんぱいになった

エ うれしくなった

3 線2「ここが家なの」とありますが、ミキちゃんの家はどこにあるのですか。

次の□に当てはまる言葉を、文中から二字で書きぬきなさい。

団地

の建物の四階

ミキちゃんは団地の入り口に立って、「ここが家なの」と言っている。



4 線3「宇佐子はランドセルの……考えこんでしまった」とありますが、このとき宇佐子はどのようなことを考えていたのですか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア ミキちゃんの家には行ってみたいけれど、あまり話したことがないのに楽しく遊べるかな。

イ ミキちゃんの家には行きたくないけれど、はっきりことわるのは悪いような気がするし、こまったな。

ウ ミキちゃんの家には行ってみたいけれど、学校帰りに友だちの家に遊びに行くのはいけないことだし、どうしようかな。

エ 学校帰りに友だちの家に遊びに行くのはいけないと知っていてさそうなんて、ミキちゃんはいじわるだな。

学校帰りに友だちの家に遊びに行くのはいけないことで、宇佐子は今までそのきまりをやぶったことがなかったのである。それでもミキちゃんのさそいをことわれないのは、家に行ってみたい気持ちもあり、まよっているからである。

5 線4「べつのこと」とは、どのようなことですか。次の□に当てはまる言葉を、五字でいどで書きなさい。

ミキちゃんの家には、ほかにも

(例) だれかがいる／人がいる

のでは

ないかということ。

「だれもいないから」というミキちゃんの言葉がヒント。

6 この文章から読みとれる「ミキちゃん」の性格として最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 短気で、おこりっぽい

イ 気が弱くて、さびしがりや

ウ 少し自分勝手に、せっかち

エ 気が強くて、負けずぎらい

「もう宇佐子についてくるものと決めたみたい」に階段を登り始めた」などから考えよう。



文章題テスト・小説(3)

日 月 名 前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ジャンボの家には、タッチやハマちゃんもアツま^アっていた。みんなでゲームをしながら、おしゃべりのワダイ^イは自然^{しぜん}と、四月のクラス替え^がのことになった。いまは一月の終わり——あと二カ月で、四年生が終わる。五年生に進級^ウするときにクラス替えがあるので、ぼくたちが同級生でいられるのもあとちょっとだ。

「四人そろって同じクラスって、やっぱり、無理^むだよなあ……」

ジャンボが言うと、ハマちゃんも「四年一組、最強^{さい}だったのになあ」と寂^{さび}しそうにならずいた。

「でも、クラス違^{ちが}ってても、オレたちずっと友だちだよな！」

タッチがガッツポーズをつくって、ぼくの肩^{かた}をポンとたたいた。

「なっ? ツヨシ」

「……うん」

²しよんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは「なんだよ、ツヨシ、もう落ち込^こんでんのかあ?」と笑^{わら}った。「だいじょうぶだいじょうぶ、授業^{じゅぎょう}中は別^{べつ}のクラスでも、休み時間に廊下^{ろうか}に出たら、いつでも遊^{あそ}べるんだから」

「……うん」

「どうしたんだよ、ツヨシ、さっきから元気ないなあ」

元気なんて出るわけない。頭の中はマコトの³ことであっただい。

タッチたちには、まだ転校のはなしはしていない。べつに「ナイショだよ」とマコトに言われたわけじゃなかったけど、友だちにしゃべると、転校のことが「ほんとにほんとの、ほんとのこと」になってしまいそうな気がして……。みんなのおしゃべりは、今度は「女子の誰^{だれ}と同じクラスになりたいか」に



なった。

「オレ、マコトは同じクラスでもいいかなあ」とジャンボが言った。

タッチやハマちゃんも、うんうん、とうなずいた。

「あいつがいるとスポーツ大会とか優勝しそーだし」「オレたちが六年生にい

じめられてもタス^オけてくれそーだし」「コワそうな先生が担任になっても、マ

コトがいたらだいじょうぶだよな」……。

4 みんなのはなしを聞いていると、急に胸^{むね}が熱^{あつ}くなって、泣^なきそーになって

しまった。

(重松 清「くちぶえ番長」による)

1 線ア〜オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア音は「シュウ」。集合、集中など。

イ「話」の訓は「はなし」「はなす」。「題」は音のみの漢字。

ア 集(まって)

イ 話題

ウ しんきゅう

ウ「進」の訓は「すすむ」「すすめる」。「級」は音のみの漢字。

エ あそ(べる)

オ 助(けて)

エ音は「ユウ」。回遊、遊具など。

オ音は「ジョ」。助手、助言など。

2 線1「四人そろって」とありますが、四人の名前をそれぞれ文中からさがして

書きぬきなさい。

ジャンボ

タッチ

(順不同)

「四人」とは、集まっておしゃべり
をしているメンバーのこと。

「ぼく」の名前は「ツヨシ」。

ハマちゃん

ツヨシ

3 線2「しょんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは『なんだよ、ツヨシ、もう

落ち込んでんのかあ?』と笑った」とありますが、タッチは、「ぼく」がどのような
ことを心配して「落ち込んで」いるかと思ったのですか。もっともふさわしいものを、
ア〜エから選^{えら}んで、記号に○をつけなさい。

ア 「最強」のクラスがなくなってしまうこと。

イ またみんなと同じクラスになること。

ウ みんなと別のクラスになること。

直後の「だいじょうぶ…別のクラスでも…いつでも遊べる
んだから」というのはげましのことがヒントになる。

エ コワそうな先生が担任になること。



4 線3「マコトのこと」とは、どのようなことですか。次の□に当てはまることばを、文中から書きぬきなさい。

マコトが、五年生に進級する前に

転校

してしまうということ。

直後の三行から、「ぼく」が、マコトの口から転校の話が聞かされて、なやんでいることがわかる。

5 この文章から、「マコト」はどのような女の子だということが読みとれますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア おとなしくて、やさしい女の子

イ 自分勝手に、わがままな女の子

ウ 落ち着いていて、頭のいい女の子

エ 活発で、たよりになる女の子

みんなが話す内ようから、マコトについてまとめよう。スポーツがとくいで、六年生や先生にも負けない、たよりになる人気者の「マコト」がうかびあがってくる。

6 線4「みんなのはなしを聞いていると、急に胸が熱くなって、泣きそうになってしまった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを次のように説明するとき、□に当てはまるもっともふさわしいことばを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

今までのマコトとの思い出がよみがえり、もう会えなくなるかもしれないと考えて、どうしようもなく□になっている。

ア かなしい気持ち

友だちにしゃべると、マコトの転校が「ほんとのこと」になってしまいそうで話せずにいることから、「ぼく」はマコトとわかれたくないのである。

イ なつかしい気持ち

ウ うれしい気持ち

エ はずかしい気持ち



★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたるは必死ひっしになって登りぼうをよじのぼった。 【ア】

「すすむ君の勝ち。」

と、下で声が出た。わたるがてっぺんへ着アくより少し早く、すすむが、ゴールしていた。

「二本め。」

わたるとすすむは、登りぼうをすべりおりて、息イをととのえた。

二本めは、わたるのほうが、わずかに早かった。

「よし、三本め、行こう。」

わたるは、勝ちたかった。すりきずだらけになって、いっしょうけんめいレンシューウしてきた。まゆの喜エぶカオが見たい。 【イ】

「用意。」

大輔だいすけが号令ごうれいをかけた。

「スタート。」

わっと、かん声があがった。わたるは、むちゅうで登った。

「すすむ君の勝ち。」

と、下で声が出た。 【ウ】

すすむは、登りぼうの上で、右手をあげて、Vサインファイをすると、するするとぼうをすべりおり、ガッツポーズをして、とびあがった。

「やったー、ぼくが木登り名人だ！」

わたるは、登りぼうのてっぺんにつかまったまま、じっとしていた。くやしきで、なみだがぼろぼろでてきた。わっと声をあげてなきだしたいのを、



じっとこらえていた。【エ】
 「わたる、おりてこいよ。勝負だから、しかたないだろう。」
 下から大輔が、よびかけた。わたるはまだじっとしていた。大輔は、みんなにいった。

木登り名人は、すすむ君だ。

ジャングルネットの下に集まっていた三組のみんなは、帰ってしまい、大輔とまきだけが、のこっていた。

わたるは、登りぼうからおりた。だれとも話したくなかった。くちびるをかんで、校門のほうへかけだした。大輔が、
 「教室にかばんを、おいてあるんだろう。どうすんだ。」
 と、後ろからさげんでいた。

(大野 哲郎「友だちになれるかな」による)

1 線ア↘オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア 音は「チャク」、着実、着色など。「きる」という訓もある。

ア つ (く)

イ いき

ウ 練習

イ 音は「ソク」、休息、生息など。

ウ「練」の訓は「ねーる」、「習」の訓は「ならーう」。

エ 顔

オ しょうぶ

エ 音は「ガン」、顔面など。オ「勝」の訓は「かーつ」、「負」の訓は「まーける」「おーう」。

2 線「後」と同じへん(部首)の漢字で書き表すものを、ア↘エから一つ選んで、

記号に○をつけなさい。

ア ゴールをめざしてオヨぎつづける。

イ 道のヨコに大きな木がある。

ウ つかれたので少しヤスむ。

エ ゴールでみんながマっている。

「後」の部首は「イ(ぎょうにんべん)」。
 ア「泳」、イ「横」、ウ「休」、エ「待」。



3 この文章には、次の一文がぬけています。どこに入れるのがもっともふさわしいですか。文中の【ア】～【エ】から選びなさい。

今度、すすむに勝てば、どうしようと木登り名人になれる。

イ

三本勝負なので、二本勝てば「木登り名人」になれる。わたるが一勝した後の内ようであることを読みとろう。

4 線「わたるは、登りぼうのてっぺんにつかまったまま、じっとしていた」について、①、②の問いに答えなさい。

① このときのわたるのようすや気持ちとして、もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。
全力をつくしたが、勝てなかったくやしさをじっとこらえているわたるのようすから考えよう。

ア 三組のみんながすすむをおうえんしたので、はらがたっている。

イ 勝負の判定はんていになっとくできず、もう一度やり直したいと思っている。

ウ 勝負に負けたことがくやしくて、どうしようもなくなってきている。

エ 登りぼうのてっぺんで風にふかれて、気持ちが悪くなっている。

② これに対して、勝負が決まったあと、すすむはどのような行動をとりましたか。それが書かれている一文をさがし、はじめの五字を書きぬきなさい。ただし、「、」や「。」も一字とします。

すすむは、

直前で、すすむは喜びを体いっばいに表げんしている。

5 この文章には、会話を表す「」をつけたほうがよいところがもう一か所あります。当てはまる部分をさがして、はじめと終わりの三字をそれぞれ書きぬきなさい。ただし、「、」や「。」も一字とします。

はじめ 木登り

直前の「大輔は、みんなにいった。」が手がかりになる。

終わり 君だ。



文章題テスト・小説(5)

日 月 名前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ずっとずっとむかし、修平しゅうへいという男の子が、夕ぐれどきの道を考えこみながら歩いていました。

修平は、なかのいい友だちと、学校のでらん会に虫かごをつくって出そうやと、やくそくしたのです。もともと修平は、手さきがきようでしたから、これはひとつ、あたりまえのしかくい、おりのような虫かごとはまったくちがう虫かごをつくってやろうと、思ったのでした。

「どんなのにしようかなあ。」

しきりと、首をひねりながら、まばらな林にはいろいろとしたとき、ふいに修平は、①、うしろにたおれそうになりました。

こしにさげていたべんとうはこのつつみがいきなり、ひっぱられたのです。「だれだあー！」

おこってふりむくと——だれもいません。やぶにひっかけたのかなと思って、修平は、歩き出しました。

すると、また！
くいくいっと、ひっぱられました。

修平は、②、ふりむきました。
やぶが、かさかさとなって、きいろいものが、さっとかくれました。

(ははあん、きつねっこだな。)
修平は、くすつとわらいました。

このあたりは、ときどき、きつねの出るところです。
修平は、さっさと歩いていきました。こんなときは、知らんぷりをしてい
るにかぎります。きつねにかまうと、ばかされると、おとなたちにいわれて
いますから。
(瀬尾七重せおななえ「きつねの虫かご」より)

(注) まばらな林…木がちらほらと、間をあけて生えている林



- ① 線1 「考えこみながら」について、次の①、②に答えなさい。

首をひねりながら

「首をひねる」は考えこむようすを、「首をかしげる」は、ふしぎに思っけて首をかたむけるようすを表す言葉。

- ② 修平は、何を考えこんでいたのですか。次の文の□に当てはまる言葉を、十字でいどで書きなさい。
修平の言葉「どんなのしようかなあ」がヒントになる。「どんなの」を「どんな虫かご」に、「しよう」を「つくろう」に、それぞれおきかえて答える。

どんな

(例) 虫かごをつくろうか

ということ。

- ② 線2 「あたりまえの」にもっとも近い意味の言葉を、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア かんたんな

イ ありふれた

「あたりまえ」には、「当然」という意味のほか、「ごく普通」という意味がある。

ウ わざとらしい

エ りっぱな

- ③ ①、②に当てはまる言葉としてもふさわしいものを、ア～エからそれぞれ選んで、記号を書きなさい。
①には、ふいに(急に)うしろにひっぱられたときのようすを表す言葉が、②には、ふりむくようすを表す言葉が、それぞれ当てはまる。

ア かくんと

イ ぶらりと

① ア

② エ

ウ じっと

エ くるっと

- ④ 線3 「修平は、くすつとわらいました」とありますが、このときの修平の気持ちとしてもふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア べんとうはこのつつみをひっぱったのがきつねだとわかって、楽しい気持ちになっている。
「はあ、きつねっこだな」という言葉に、もっともふさわしい気持ちを選ぶ。「知らんぷりをしているにかぎります」とあるので、イヤウは当てはまらない。

イ 小さなきつねと遊ぶことができる、うれしい気持ちになっている。

ウ やぶにかくれたきつねに、何とかいたずらをしかえしてやろうと、うきうきした気持ちになっている。

エ きつねがにげていったので、もういたずらされないほっとした気持ちになっている。

- ⑤ 線4 「修平は、さっさと歩いていきました」とありますが、この理由を次のようにせつめいしました。
 ①、②に当てはまる言葉を、それぞれ文中から五字で書きぬきなさい。
すぐ後に書かれている。「ばかす」は、だます、たぶらかす、という意味。

きつねにかまうと

①

②

をしようと思ったから。

① ばかされる

② 知らんぷり

